

■平成28年9月7日（水） 1・2年生メンバー4名参加。

2学期が始まりました。今学期最初のハセックは、夏休みの思い出について、一人1分程度英語で話し、それに基づいて、他のメンバーやALTが質問をするという内容でした。

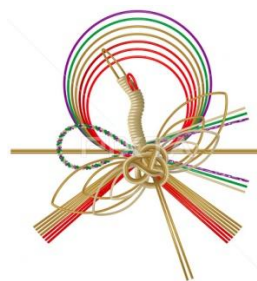


長浜での英語合宿での話、親戚の家に遊びに行きバーベキューを楽しんだという話、石川県方面に家族でドライブに行ったという話など、バラエティに富んでいました。

■平成28年9月14日（水） 1・2年生メンバー8名参加。

前回の参加者が少なかったこともあり、再度、同じ内容で夏休みの思い出について、気軽に英語でトークをしました。地元の花火大会に行ったという話や、USJに遊びに行った話などが出たあと、ALTのニア先生からの報告になりました。

ニア先生は、大学時代に、京都の立命館大学で留学生として学んでいたのですが、当時の日本人の友人が長野県（飯田市）にいることがわかり、そこで彼女との再会を果たしたという報告でした。飯田市では名産のリンゴを味わい、水引記念館なども訪問したとのこと。ハセックは、急遽、「水引の説明会」になりました。



生徒は普段、あまり水引を使う生徒が少ないこともあり、説明に苦慮していました。そもそも結婚式や葬式でお金を包む習慣にあまり馴染みのないアメリカでは、「どのような形で祝意や弔意を表現するのか」という話題にも発展し、難しい中にも興味深い内容となりました。

■平成28年9月21日（水） 1・2年生メンバー9名参加。

今回は、「嫌いな食べ物」についてディスカッションをしました。メンバーが一人ずつ、嫌いな食べ物とその理由を英語で説明していきました。滋賀県特産の「鮎寿司」、「トマト」など色々出てきましたが、「リンゴ」が挙がったときは、ニア先生も、夏休みに訪れた長野県飯田市で食べた美味しいリンゴの記憶が新しいのか、驚いたようでした。



“An apple a day keeps the doctor away.” 「一日一個のリンゴで医者いらず」という有名な諺もあるように、バランスのよい食事も心がけてほしいものですね。

■平成28年9月28日（水） 1年生メンバー3名参加。

今日のハセックでは、「スクラブルゲーム」をしました。これはアルファベットと点数が記載された駒を、ゲームシートに並べて単語をつくり、駒の点数を合計して順位を競う、アメリカでも広く親しまれている英語の単語ゲームです。

X、Y、Zで始まる語など、語彙数の少ないものは、得点が高くなっています。シートには、「駒のスコアを2倍する」「総計した駒のスコアを3倍する」などと記載されている部分もあり、これを上手く活用すればスコアアップで勝利が近づきます。

各自、10個の駒を持ってスタートし、自分の番になったときに考える時間は1分間。駒の交換は1回のみ可能で、辞書は使用禁止です。



生徒たちは、自分のもつ語彙を総動員し、楽しみながらも、目はゲームシートに集中していました。普段から語彙力増強に努めてほしいものです。

■平成28年10月19日（水） 1年生メンバー7名参加。

今年もハロウィーンがやってきました。来週水曜日は、ALTのニア先生が出張のため、本日に繰り上げて、ハロウィーンスペシャルを実施しました。

まず、宿題になっていた、ハロウィーンについての質問を一人ひとつ、ニア先生にやってきました。「ハロウィーンの起源は何ですか?」「何故、カボチャを使うのですか?」「アメリカでは、この日、特別なハロウィーンディナーを食べるのですか?」「収穫祭の一つですか?」などの質問が出されました。

ニア先生からは、この行事は、1920年代にスコットランド出身の北米への移民が広めたのが発端で、最初はカブやジャガイモが使われていたこと、1950年代頃からカボチャを切りぬいて、“Jack-o’-lantern”を作って玄関先に置くようになり、魔女や吸血鬼などに変装して“Trick or Treat”と言いながら近所を歩いて、お菓子をねだる習慣が定着したこと、家庭にもよるが、

Thanksgiving Day に七面鳥を料理して食べるような、特定の食材を使ったハロウィーンディナーというものはあまり見られないこと、日本で言う『収穫祭』とは質を異にすること等の説明がありました。

次に、各自お菓子を交換し、ニア先生からも特製のプレゼントをいただき、ハロウィーンのディズニーのDVDを観て、ハロウィーン気分を味わいました。

